

6-1-2 次郎長ゆかりの史跡 壮士墓（そうしはか）

ここは明治元年9月18日に清水港内で起きた内戦・咸臨丸事件の戦没者の墓地である。新政府軍に切り殺され海上に投棄された幕府軍乗組員の遺体は、数日港内を漂い腐乱していた。「触れる者は同じ逆賊とみなす」という新政府軍の命令に誰もが手を出せず困惑する中、侠客清水次郎長は、お咎めを恐れず遺体を拾いあげこの地に埋葬した。

この次郎長の義挙に感銘した山岡鉄舟は「壮士墓」を揮毫して与えた。

敷地内には咸臨丸事件と戦没者のこと、そして次郎長の義侠心を後世に伝えるべく多くの顕彰碑が建っている。

清水市説明板より